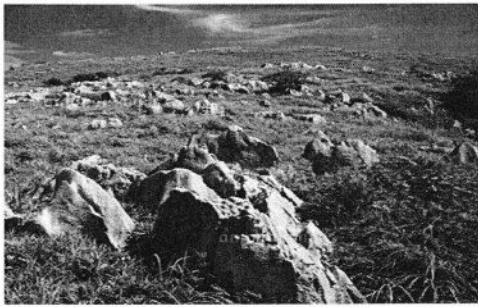


り、私、藤井文夫副会長、松岡次郎副会長、小澤義郎事務局長の四名で、叙勲担当課の山口県教育委員会教育政策課前田安典副課長、大玉一貴総務管理班主査へ叙勲について要請し、陳情書の説明をしてまいりました。また出張中の県教育長へ陳情書を手渡され、検討していただくよう約束をしてみました。現状では教頭経験者の叙勲については難しい様子でありましたが、市町教育委員会への働きかけをして、是非取り上げて叙勲が出来るように、強く要望してきました。

中国地区の各県総会には、祝詞をお届けしておきました。広島県は五月二十四日(日)岡山県は六月十七日(木)に実施され、島根県は七月二十日(日)に実施されます。

二十七年第一回新旧合同役員会が六月十一日(木)、山口市湯田温泉の「セントコア山口」で開かれました。役員選出及び各地区の会員の確認、会費未納者への対応、平成二十六年度事業報告並びに決算報告・監査報告、二十七年年度の重点課題と対応、二十七年年度事業計画並びに予算案の検討、特に会員数減少に伴う支出費の削減の検討、保険紹介活動の状況、第二十七回親睦交流総会について(第四地区)、全国代議員大会の報告、その他、三時間十分分に渡り、慎重審議がなされました。



佐賀県

佐賀県退職教頭会

二十五周年記念誌発刊に寄せて

会長 村田 英次



昭和六十二年三月佐賀県公立学校退職教頭会が発足してから二十六年が経ちました。三十名の有志が集まって立ち上げたのが今や百名を越す大所帯に発展しました。総会、旅行、新年会など会員相互の親睦が深まっています。現在まで楠和会の発展に尽力されてきた諸先輩には感謝いたします。またその間に他界された先生方のご冥福をお祈りいたします。

近況報告を見ると、心身の不調、病院通い、病気の配偶者の看護をしなければならないことなどをとると誰もが遭遇する事柄が書かれています。趣味、社会奉仕、体力増強のため毎日の運動に励んでいる方もおられるようです。元氣澁刺、顔色も若若い方が多いようです。ある人の言説によると、人間の若年期と成年期の境は二十五歳前後、成年期と老年期の境は七十歳前後だというそうです。七十五歳以上の人を後期高齢者と区分けして健康保険料を別途に徴収しています。保険料は高額で、少ない年金が更に少なくなっています。

楠和会の会員も四十パーセントの人が高齢化しました。わたしは毎朝、新聞のお悔やみ欄に目を通すのが習慣になりました。会員の名前があれば家族の方に弔電を送り葬儀に参列できれば弔辞を述べます。楠和会会員が一人減ったなあと思ってしまう。

がします。

退職された若い先生たちが、(八十歳の老骨からみればそうよばせてもらいたい)わが楠和会に加入して新鮮な息吹を吹き込んでもらっています。これからは大いに楠和会のために経験と発想力を生かして貰いたいと思います。役員、理事などは交替の時期にきていると思います。どんどん意見を言ってもいいと思います。

退職教頭会は多くの課題を抱えています。会員の老齢化に伴う組織の維持が難しくなっています。佐賀県では近年加入者が増えていますが亡くなる会員も増えていきます。会員の意識の問題もあります。楠和会の行事にはできるだけ参加するとか、広報誌に投稿するとか、会員の消息を待つております。

退職教頭も叙勲の対象にするようにと、全国的な運動を行っておりますが光明の兆しが見えません。また昨今、教頭職を目指す先生が年々減少している現状があり、私たちは心を痛めています。教頭、副校長の職は激務であります。学校運営の要であり、学校内外に目を配る立場にあります。いじめ、不登校、学校内外、家庭内における暴力事件、過度の学校、教師批判等、学校を取り巻く環境はきびしいものがあります。七十年続いた「六・三制」は見直しが迫られ、〇一六年度からは、「小、中一貫」の『九年制』が実施されることとなりました。果して十分な教育効果が高まるでしょうか。すでに佐賀県内の自治体では『小、中一貫校』が多く見られます。

また、週五日制では生徒の学力が身につかない。土曜日も授業を行う学校が増えています。学習塾は盛況です。全国の小中学校に一斉学力テストを行い、テストの結果を公表して競わせる。先生たちは、テス

ト対策に始終追われている有様です。成績が振るわない学校の校長名を名指しで公表すると言う行政の首長まで現れました。校長は生徒のテストの結果に一喜一憂している。佐賀県では、いわゆる全国学力テスト先進校と呼ばれている学校に教師を派遣してそのノウハウを学ばせることもしているようです。佐賀県の児童・生徒の学力が向上することを願っております。

ある政治家がこう言いました。『日本からもノーベル賞受賞者を三十名は出したい』昭和二十五年、湯川秀樹博士がノーベル物理学賞を受賞されてから現在まで、多数の日本人が各分野でノーベル賞を受賞されました。三十名は夢ではなさそうです。日本人の頭脳は世界のトップレベルにあつて優秀です。

しかし学力で測れないもの、それは道徳心です。文部科学省は二〇一五年度から『特別教科』として道徳の授業をカリキュラムに組み込むことにしています。現代社会は物が豊富にありすぎる消費万能の世界です。食べたいものはどこでも食べられるし、欲しい物に金さえ出せば手にはいる。しかし、こんなことが私たちの幸福な生活といえるでしょうか。三年前の東日本大震災を思い起こすと、今日でも、被災者仮設住宅で、不自由な生活を強いられている多くの人々がいることを忘れてはなりません。

道徳教育は生きる価値観を子供たちに教えることだと思えます。子供たちがそれぞれ大人になった時社会の一員として負わねばならない義務や責任を学校で教えることは必要だと思えます。

かつて和魂洋才と呼ばれた思想がありました。徳川幕府崩壊後、わが国には欧米文化、思想、学問、科学技術が一举に導入され、日本古来の伝統文化と混

ざり合つて今日の日本社会を作り上げたと思えます。しかし悪しき面もあります。欧米の個人主義はミーイズムと呼ばれる利己主義に取り替えられ、学校「PTA」の親たちはわが子だけを大事に育てようとして先生たちを困らせることがあるようです。かつて日本人が持つていた謙虚さは失われつつあると言えましょう。道徳教育を通じて子供たちに礼節を重んじ、他人には大愛を持つて接することを教えることに異議はありません。さすれば『いじめ』の問題などなくなると思うのですが、最後に言いたいこと、それは私たちは教壇にはもう立てないが、わが国の学校教育、日本の行く末を見守つてゆきたいと思えます。

滋賀県

滋賀県公立学校退職教頭会活動再開

総会 開催される 広報担当 大寿賀 修

昨年度は、諸般の理由で活動がストップしていましたが、一年半ぶりに、活動を再開しました。平成二十七年度の総会を十一月七日（土）「ライズヴィル都賀山」で開催し、送付済みの総会資料内容について協議しました。

会務報告や決算・予算などを検討協議し、その中で残念ながら会員数が若干減り十八名になったとの報告を受け、知人に呼びかけて増員することを目標としました。

当日は八名の参加と委任状九



名でしたが、嬉しいことに今回初めて参加していただいた会員さんがおられ、光が射したように感じました。

総会後は、ささやかな懇親会を持ち、久々の顔合わせに時間を忘れ、話に花を咲かせました。今後一人でも多くの参加者を得て、ワイワイガヤガヤと楽しむことが第一である、との結論に至りました。また、総会では、役員改選年であり、現役員も二期続けてですので、新しい人選を！と提案されたのですが、前年度、活動できなかった責任も含め、もう一期続けることとなりました。力不足者ばかりですが、どうぞよろしく願います。

活動方針・事業

一、組織の維持・拡大

会員相互の交流や親睦を図ることに重点を置いた魅力ある活動を目指して事業を実施しているが、多用なのか参加率が上がらない。現役を退職されても「この会を意識されていない」のか、「仕事を終えたばかりでやれやれと思いつくりしたいので『もうええわ』」と思つておられる方が多いのか、入会していただけない。また、会員も高齢化や病気の理由で退会者も出るなど、設立当時は二十四名だったのが十八名に減った。会員個々が、知り合いに呼びかけるなど勧誘活動を繰り返し広げよう。

二、会報

何とか広報委員会を立ち上げ、一個人に頼ることなく発刊出来たらいいと思う。

三、福利・厚生事業

親睦を図るための事業で、会場は検討中ですが、今年は、雪見酒になるかも。それぞれの居